

グローバルネットワーク 社会統治の一形態

長浜 正道

(株) 富士通総研 M&Mコンサルティング事業部

1. はじめに

最近のネットワーク、特にインターネットの普及には目をみはるものがあり、特にそのグローバル性は21世紀における国際社会に多大な影響を及ぼすことになるものと思われる。このようなオープンなグローバルネットワークの浸透は、これまでの社会統治の形態/方法等にどのような影響を及ぼすのであろうか。

以下、この点に関して、やや異端的?な視点から考察してみたい。

2. 社会学的観点からみたインターネット

—— 「IT革命」その光と陰 ——

最近はどこへ行ってもインターネットを中核とする「IT革命」が話題にならないことはない。

特に、ビジネス分野における展開は著しく、インターネット主導の「eビジネス」が21世紀初頭における企業経営の本流になる可能性は大きい。

このようなIT革命の流れにより、われわれ人類の「企業経営、経済、政治、行政、司法、安全保障、教育、生活など社会のあらゆる面における利便性・効率性」が高まり、より高いレベルの要求が満たされることになろう。

このような側面は、言わば「IT革命の光」の面である。

しかしながら、IT革命には、このような「光の面」だけでなく、サイバーテロ等にみられる「陰の面」とも言うべき負の側面があることも無視できない。

一般に、このような負の側面は、前出のような正の側面よりも一歩遅れて顕在化する傾向がある

ため、その実態がまだよく見えない面がある。

とはいえ、インターネットの分野においては、既に以下の例に代表されるような問題が顕在化している。すなわち、①迷惑・有害情報の氾濫（コンピュータウイルス、誹謗・中傷情報の発信、誇大・虚偽広告や不適切な勧誘、チェーンメール、Web改ざん、等）、②ネットワーク犯罪の増大（国家的機密情報漏洩、電子とばく、違法品販売、サイバーねずみ講、詐欺、個人情報流出、ID・クレジット番号盗用、ネットストーカー、レイプ掲示板、等）などである。

3. 問題への対応とその限界

インターネットが引き起こすこのような問題の多くは、瞬時に国境を越え、グローバルな問題となるため、従来の国家単位のレベルでは対応が困難なところに大きな特徴がある。

このような問題に対応すべく「セキュリティ確保やプライバシー保護のための各種の技術（ハード/ソフト〔ファイアウォール、暗号化ツール、アンチウイルスソフト、認証、アクセスコントロール、監視ツール、フィルタリング、VPN、等〕）」が利用され、「各種基準・ガイドライン、法制」等が作成されているが、問題は次々と発生しており、問題と対応との間でたちごっこが続いている。今後EC（電子商取引）等が普及し、インターネット利用が全世界に浸透した場合、これらの問題はさらに増大し、社会的な不安・不満・混乱等の原因になる可能性も考えられる。

インターネット自体がよく言われるように「自律・分散・協調の三原理で成り立っている」こと

から考えると、従来の集中型ネットワークのような管理機能をネットワーク自体に期待することは困難である。ほぼ全世界に展開されているといえ、インターネットの全体を統合的に管理する組織などは存在せず、自身のネットワークは自己責任で運用・管理しなければならない。視点を変えれば、このことがインターネットの効用を高める一つの要因になっているとも言えよう。

しかし、約3億人（世界全体）が日常的にインターネットを利用しているとされる今日、現実問題としてそのような「自律・分散・協調」の原理に基づく自己統治型の運用・管理には限界が出てくるのではないかと考えられる。

そもそも「自律・分散・協調」の原理に基づくネットワークシステムは、「善意」「自発性」「自覚」「責任」というようなものを前提に成り立つものである。ネットワークの大衆化、グローバル化が進展した結果、ネットワークに参画する全ての者にそのような前提を求めることが困難になるのであるとすれば、何らかの「新しい統治原理的なものおよびそのシステム」が必要になるであろう。実際、性善説に基づく対応は良い結果をもたらさないであろう。

この「新しい統治原理」に関しては、いろいろな考え方があるが、次項では現実的には有り得ないと思われる極端な例を取り上げてみることにする。

4. グローバルネットワーク社会統治の一形態

前述のように、インターネットの急激な普及の流れは、従来の自己統治型の運用・管理に問題を突きつけ、我々には「インターネット大衆化時代に適合する新たな統治原理」が求められることとなる。ここでは、G. オーウェルの小説「1984年」に見られるような統治形態が出現する経緯の一つについて考えてみる。

常識的に考えて、このような経過をたどる可能性はまず無いと思われるが、共産主義体制出現の経過等を見ると、絶対に有り得ないと決めつけるわけにもいかないであろう。

その契機となるのは、人間自身の精神的進化と不釣り合いなまま急激に進展するネットワーク化がもたらす社会的な問題とそれに対する民衆の不安と不満である。

インターネットが普及・浸透した社会においてサイバーテロを始めとする重大なセキュリティ問題が頻発し、政府等によるそれへの対応が的確に行われない状況が続いた場合、民衆の不安・不満が鬱積してゆき、管理体制強化の要求が徐々に高まってゆく。

頻発するセキュリティ問題の重大さに、民衆は過剰とも言えるような強い管理体制を求めるようになってゆく。このような体制は不可逆的である。知らず知らずのうちに管理体制の強化と権限の集中が進展してゆき、予想もしなかった管理社会が出現する。（下図）

